

夕陽會報

Bon Voyage

第238号



◆ 巻頭言 ◆

夕陽の記憶をつなぐ

副会長 竹鼻 洋文

(昭和49年卒)

昨年十二月、夕陽会「学生支援プロジェクト」事業（Q.U.Oカードの配付）を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大を機に生活支援の目的で行っている事業で、会の重点推進事項でもあります。昨年に続き、北方教育資料館・夕陽記念館を会場に三日間実施しました。言うまでもなく、この建物は大正三年開校の函館師範学校の校舎の一部を保存した築百十年余の建造物です。遠い記憶となりつつある先達の歩みに触れてもらうため、当日は、まず館内を自由に巡ってもらいました。ただ、平成生まれの学生の皆さんにとって、大正・昭和期の展示資料は時代背景が違いすぎて、正直、十分伝わらないところがあったかもしれません。

開校当時、国内外の流通の要衝だった函館の人口は十万人を超えてその後も急増。北海道の就学期学齢児童数、就学率も大幅に上昇し、小学校の本科正教員不足が深刻な状況でした。こうした中で函館師範学校は開校しました。初代校長・和田喜八郎氏は、北海道の「拓殖事業を完成せしむる」ためには「企画的創造的少壮教育を養成する」ことが刻下の急務として「拓殖教育」を掲げました（創立六十年史）。展示室には、その薫陶を受けた第一回卒業生・古谷全氏の手による「函館師範学校ニ

於ケル拓殖教育」（図表）が掲げられています。そこには、師の教えの要諦である「開発者タル自覚、創造的精神、企画的才能、進取、共同、自治」の文言が見えます。所謂「師範タイプ」とは異なる「自由自主、独創的、進取的、企画的な人材」を育成する教育が実践されていたことが窺われます。

館内の資料の数々は、時代を超えて私たちに多くの事を語りかけてくれます。記念館は、それらを感じ対話する場であると私は感じています。地域の方々も含め、より多くの人に足を運んでほしい場所です。

展示室を巡りながら、この春、社会人となる複数の学生さんがその感想とともに社会に出る意気込みなどを語ってくれました（もう立派な社会人でした）。函館校では、卒業生の進路が多様になっていますが、いかなる道に進もうとも、母校の原点である「創造性豊かで自由闊達な精神」を心の柱として、自ら選んだ職業や仕事にやりがいと喜びを見出し、社会の大海原で存分に力を発揮してほしい。同窓会はこれからも母校と学生の皆さんを全力で応援します。学生支援事業を通して夕陽の心も一緒に届いてくれることを切に願う三日間でした。

栄誉に輝く同窓



○令和六年度北海道教育功績者表彰

「二期一会」の出会いが支えに

岩見沢市立東光中学校長 河村 克也
(昭和62年卒)

この度、令和六年度北海道教育功績者の栄に浴することとなり、大変恐縮しております。

道教委の幹部の皆様をはじめ関係の皆様が見守る中、表彰式における「受賞者代表あいさつ」では次のようなお話をさせていただきました。

(前文略) 私は、昭和六十二年四月、釧路管内、厚岸の中学校において教職の道を歩み始めました。初任者五名で着任し、一年生の担任として、体育教師として元気のいい子どもたちと奮闘したことを思い出します。

その後、十勝管内の小さな複式の小学校、空知管内、日高管内の中学校など四つの管内、七つの学校で経験を積ませていただきました。三十八年間の教職生活では、数多くの児童生徒や同僚の先生方、そして地域の皆様との出会いがありました。そんな「二期一会」の出会いが、私のこれまでの歩みを支えてくれました。私は二校目に赴任した十勝管内のへき地複式の小学校での経験により、教職に対する考えや目指す方向性を大きく変えることとなりました。子どもたちの学びの成果は私たち教育者の人間性や人格に大きく影響を受けることを肌で感じたからです。自分自身が教師である前に、一人の人

間としてしっかりと考えたことを持つこと、そして、尊敬される大人として子どもたちの前に立つことが何よりも大切であると実感しました。そんな思いが本日の受賞につながったのであれば、私にとってこの上ない幸せであります。

学校教育をめぐる、現在は様々な問題があふれています。教職員のなり手不足も心配ですが、解決の特効薬はありません。私が願うのは、子どもたちにとって学校が楽しい場所であること、そして、教育という仕事、これが、これからの日本を担う子どもたちを育てる「素敵な仕事」であることが広く社会に認められるようになることです。本日の栄誉ある教育功績者表彰の受賞を糧に、これから一人の人間として、日本社会の一員として、堅実に生きてまいりたいと思っております。(後文略)

私が赴任したどの管内においても夕陽会員が集い、世代を超えた交流が盛んに行われていました。先輩方はいつも後輩を温かく見守り、そして、励ましてくださいました。そんな同窓の皆様との「二期一会」の出会いも、私の心の支えとなっております。感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございます。



○令和六年度北海道教育功績者表彰

同窓の皆様への感謝

函館市立八幡小学校長 寺本 公彦
(昭和62年卒)

この度、令和六年度北海道教育功労者の栄に浴することとなりました。私にとりましては、身に余る光栄であり、大変恐縮しております。このように功績者として表彰を受けますことは、函館市教育委員会をはじめ、多くの方々の温かいご支援やご指導があったお陰であると、心より感謝申し上げます。

授賞式前日、夕陽指導主事等会の皆様による「受賞を祝う会」を開催していただきました。今年度は夕陽会から同期の河村克也校長(岩見沢市立東光中)との受賞となりました。風間会長をはじめご参加の皆様より過分なる祝福の言葉を頂戴し、各教育局の同窓の皆様からはご祝詞も頂き、受賞の喜びを実感いたしました。お忙しい中、この会を企画・運営していただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

ホテルライフォートで行われた授賞式は、西口指導監や谷垣局長、伊藤藤伸一局長など渡島に縁のある道教委幹部職員の皆様のご臨席する中で行われました。中島教育長より表彰状と記念品をいただくとともに、会場の皆様から温かい拍手をいただきましたことは嬉しい限りでした。

今回の受賞にあたり、これまでの教職人生を振り返りますと、昭和六十二年四月に砂原町立(現森町)砂原小学校に着任以来、夕陽会の諸先輩からのご指導・ご助言、同期の方々との絆、後輩の皆様と過ごした有意義な時間により、今の自分があるものと思っております。

その後、上磯町(現北斗市)函館市の小学校に勤務し、教育行政での機会もいただきました。そして、教頭職、校長職と三十八年に渡る教職の道を歩いてきました。振り返りますとそのすべての場面において、同窓の皆様との出会いがあり、そこで充実した、思い出深い時間を過ごしてきたと感じます。これまでのすべての出会いに感謝申し上げます。

母校の教員養成システムは私たちの頃と随分変わってきております。さらに教員採用の数も減少してきている現実があります。しかし、どんなに時代が変化しても、夕陽会が私たち同窓の絆を確かめ合える場であり続けてほしいと願っております。会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念しまして、感謝とお礼のご挨拶とさせていただきます。



「夕陽會帶広十勝支部巴灣會」

長い名称の経緯

山田知史

(平成2年卒) 帯広市立帯広第五中学校長

北海道の中央には日高山脈が南北にのびていますが、西から吹く湿った空気は日高山脈におつかり雪を降らせ、乾いた空気が山を越え十勝へやってきました。そのため、十勝は雪の日が少なく「十勝晴れ（とちちばれ）」と言われる晴天の日が多くみられます。十勝晴れの日には放射冷却現象が起こり厳しい寒さに包まれます。どこまでも続く雄大な大地の中に、一直線の道路、広大な農地、カラマツやシラカバの防風林など、北海道らしい風景が広がっているのが十勝の特徴です。

令和六年現在、十勝管内の学校数は小学校八十一校、中学校四十六校、義務教育学校二校です。平成二十七年度は小学校九十七校、中学校四十九校でしたので、学校数からも少子化は確実に進んでいることがわかります。今年度で閉校になる学校、義務教育学校に向けて準備を進めている学校もあるため、更に学校数が減っていくことは確実です。

さて、夕陽会十勝支部は「夕陽会
帯広十勝支部巴湾会」というのが正
式名称です。特徴的な名称には意味
があります。かつての十勝管内夕陽
会は、帯広市内は「帯広夕陽会」、
帯広市以外の十勝管内は「十勝巴湾
会」という名称で、それぞれの支部
に組織があり総会も別々に行ってい



網走連合支部だより

網走連合支部長 齊藤修

(平成2年卒 網走市立第二中学校長)

網走連合支部の活動に際しまして夕陽会本部、特に道東ブロックの皆様には日頃より多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて「網走連合支部」という名前に
は少し特徴があります。平成二十二年に支部名が「網走」から「オホーツク」へ変更されましたが、その際も「網走」の名称をそのまま使用しました。また、「連合」という名称も特徴的です。当管内は岐阜県とほぼ同じ広さを持ち、かつては東側から網走、北見、遠軽、紋別の四つの支部で構成され、それらをまとめて網走連合支部と呼んでいました。以前はブロックごとに交流会が開かれ一月の総会時には温泉に宿泊しながら親睦を深めていました。堅苦しさがなく、気さくに話せるのが夕陽会の魅力です。

しかしながら、オホーツク管内も市町村合併や少子化の影響を受け、学校数や同窓生の数が減少しています。私が就職した平成二年度には、小学校一五七校、中学校六三校、計二二〇校ありましたが、現在では小学校七〇校、義務教育学校四校、中学校四三校、計一一六校とほぼ半減しています。このような状況を踏まえ、自治体の中には早い段階から義務教育学校への移行準備を進めている

るところもあります。ちなみに、同じ規模の岐阜県では、小学校三五一校、義務教育学校六校、中学校一八校（令和五年五月時点、岐阜県HP参照）。会員も減少し、私は支部唯一の校長となりました。そのため昨年度の総会で規約を改正し、役員数や総会の形式を見直して活動規模を縮小することで持続可能な運営体制を目指しました。

また、道東ブロックでは網走、帯広十勝、釧路、根室が持ち回りで年一回の「道東ブロック会議」を開催しています。令和元年度に私たちが幹事を務めた際には、日本一のためねぎ産地である北見の集荷施設見学やカーリング体験、交流会など充実したプログラムを実施しました。しかし、コロナ禍を経て管理職の減少もあり、今年度は従来のようなおもてなしが難しい状況でした。そのため、道東ブロック会議をオンライン形式に変更し、会費でオホーツクゆかりの飲み物や食べ物を参加者に送付して、会食を交えた交流形式を工夫しました。

各支部も同様の課題に直面していることと思います。函館から遠く離れた地ではありますが、夕陽の灯を消さぬよう少数精鋭で努力を続けてまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

支部だより

各界で活躍する夕陽会員



教員にはならなかったけれど

中出 幸恵

(平成11年総合科学課程卒 北海道新聞社みらい教育推進室)

昨夏、仕事で二十五年ぶりに母校を訪れました。仕事が始まる前に構内を歩きました。音楽棟の練習室からピアノが消え、総合科学課程の部屋はなくなり、美術科の友人がこもっていた窯部屋も閉じていました。大学も変わることを実感しました。

大学在学中、世の中は就職氷河期の真只中。紆余曲折を経て、北海道新聞社に記者職として入社しました。今は小学生向けの新聞「まなぶん」を作っています。

食紹介の寄稿文を依頼します。記事が小学生の興味関心に刺さるにはどうしたらいいか、と考える毎日です。私の仕事は取材中心ですが、新聞社は新たな事業に乗り出しています。私の職場では、総合デジタル教材「まなbe1」を販売しています。記事検閲や新聞制作、作文を書く機能を搭載し、札幌市など複数の自治体の学校で活用いただいています。興味のある方はぜひご連絡ください。教員にはなりませんでしたが、仕事で学校や子どもたちに関わっているのは何かの縁なのかなと感じています。ただ、なかなか同窓の先生に出会えないのが残念。ぜひ、自ら名乗り出ていただけると嬉しいです。同窓のみなさんとはそれぞれの道で頑張りが、刺激を受け合える関係でありたいと思います。みなさんのご活躍を心より願っています。



学校・給食紹介コーナーに登場する学校を募集しています。
sachie@doshinpress.jp
までお知らせください。



市役所でのこれまでと大学での学び

川口 葵衣

(平成30年卒 函館市農林水産部農務課)

私は、北海道教育大学函館校を卒業後、平成三十年に函館市役所に入庁し、これまでに三か所の所属で勤務をしてきました。

市役所に入庁して最初の配属は総務部人事課で、職員の服務や職員採用のこと等を担当しました。市役所内の休暇制度等の疑義を整理したり、採用試験の試験官をしたりと、一年目の業務としては難しい内容で業務量も多く、周りの先輩方のサポートに頼りきりでしたが、市職員として今後働いていくための必要な基礎をしっかりと学べたので、その後は経験値が活きる事が多く、ありがたいことだったと感じます。

次の異動では、研修派遣職員として一年間総務省の自治行政局福利課安全厚生推進室で勤務させていただきました。地方公務員の安全衛生に関すること、特に職員のメンタルヘルスケアや災害補償に関することなどの業務を担当しました。当時はコロナ禍で緊急事態宣言が出ていた時期ということもあり、時差出勤やリモート勤務を積極的に取り入れていたため普通の勤務体系ではありませんでしたが、コロナという未曾有の事態に對しての国のかじ取りを間近で体験でき、貴重な経験となりました。

現在は、農林水産部農務課に配属となり、酒蔵やワイナリーなど新たな

な農業資源を中心として農村地域の活性化を図るグリーンツーリズムの推進や、ワインの振興に関する業務を主に担当しています。先日はグリーンツーリズムのモニターツアーとして実施した二泊三日の商品造成に関わり、まだ知られざる函館の農村地域の魅力発信に取り掛かっているところですし、今年度から新たに企画した函館市ワインアカデミーという事業では函館でつくられるぶどうやワインのことを市民の方々に知っていただくようなイベントを実施しています。当課での業務は今までもない道を作る作業がほとんどであるため難しくはありますが、これからの函館市の農業を支える大きな一歩になるよう、農家さんや事業者さんと協力しながら業務に励んでいきたいです。

上記のようにこれまでの業務は多岐にわたる内容でしたが、すべてに大学での学びや経験が活かしていると感じます。専攻は市役所業務に直接の関係はありませんが、研究で学んだデータ分析や資料の作り方はじめ、特に思考力や問題へのアプローチの仕方については、研究室の先生の教えが私の基盤です。この場をお借りして大学時代にお世話になった方々、市役所にてお世話になった先輩方に心から感謝申し上げますとともに、夕陽会および会員の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

特色ある活動 その1 母校の活動

北海道教育大学函館校 吹奏楽団

公式HP



全国大会

の「秘儀」シリーズの一つで、一種宗教的、神話的なテーマによって作曲されています。当団は、これまで「秘儀Ⅳ（行進）」や「秘儀Ⅷ（地響天籟（ちきようてんらい））」などの「秘儀」シリーズの作品を何度も演奏させていただきました。エクリプスとは、太陽や月が一時的に光を失う現象である「日食」を指しており、それをめぐる祈禱の儀式をコンセプトに作曲されています。土俗的な旋律や、邪気をはらう動作、ジャワ島の伝統舞踏であるケチャを思わせるリズムから、日食をめぐる人間の喜怒哀楽の様子が表れた曲です。今回は、曲の持つ特有の世界観を表現しようと団員と意見を交わしながらこの作品に取り組んでまいりました。本番では私たちらしい教育大サウンドを会場に届けることができたと感じております。応援してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。本団にありがとうございました。さて、当団は「地域の方々」に音楽の素晴らしさを伝えたいという思いのもと、訪問演奏や練習会、イベント演奏などを積極的に行っています。一つ一つの活動を支えてくださる地域社会へ貢献できるような演奏を

北海道渡島総合振興局
道民ホールコンサート

目指しています。昨年七月に本学で行われた「学びプロジェクト」では、「吹奏楽の世界」と題し、吹奏楽団員が地域の子どもたちに対して授業を行いました。演奏やリズムクイズなどを行い、会場は子どもたちや保護者の皆様の楽しそうな声で溢れ、たくさんの方々に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。他にも、函館市内の小学校への訪問演奏では、楽器紹介や子どもたちにも人気な曲を演奏したり、檜山で行われた吹奏楽講習会では、中学生・高校生とパート練習や合同演奏を行いました。また、音楽の楽しさを実感してもらうことができました。また、北海道渡島総合振興局にて行われた道民ホールコンサートでは、勤務された職員の方々が地域の方々にもお越しいただき、たくさんの方々に私たちの演奏を聴いてもらうことができました。さらに、十二月二十五日に亀田港児童館でクリスマス演奏会を行うなど、この他にも様々なイベントに参加させていただきました。貴重な経験をさせていただき、貴重な経験を通して、多くの地域の方に音楽を通して、多くの地域の方に出会えること、喜んでいただけたこと、素晴らしさを実感しました。当団は学生が主体となつて活動しており、年に三回開催している当団主催の演奏会（定期演奏会、WINTER CONCERT、春一番コンサート）では、団員が企画・運営を行っています。昨年のWINTER CONCERTでは、「聴く」「この多様性と多義性をテーマに」「耳で聴く音楽」「聴覚を通じて音そのものを楽しみ、そこから音の響きや雰囲気を楽しむこと」と「耳で聴かない音楽」を全体で感じる振動や奏者の動きと音楽をより立体的な情報を通じて、二つの異なる視点から音楽を楽しむという新たな楽しみ方が創出されるような取り組みを行いました。



第47回定期演奏会

吹奏楽団での活動は、良い音楽をみんなで作る音楽を心から楽しむことを目標としています。音楽を作り上げるその過程で、主体的に考え、様々な困難を乗り越えるために団員と切磋琢磨しながら活動すること、達成感や喜びを仲間と共有でき、この団にいるからこそ感じられる充実感があると思っています。これらの経験は、今後の私たちの豊かな人生を切り開くための支えになると感じています。これからも音楽ができることの喜びを感じながら活動していきたいです。最後に、私たちがこうして活動することができているのは、皆様、日頃より私たちの活動を応援してくださる家族、地域の皆様のおかげであります。夕陽会の皆様におかれましては、いつもご支援いただき誠にありがとうございます。皆様の応援に支えられよう努力を重ね、感謝の気持ちを忘れずに活動してまいります。今後とも北海道教育大学函館校吹奏楽団をよろしく願っています。

その2 ある活動 特色の 母校の

地域づくりのイベント

厚真町での実習を通じて

令和六年度地域づくり支援実習・地域政策ボランティア実習として、二年生二名、三年生一名、四年生二名が北海道厚真町に滞在させていただきました。主な活動として、午前は原木しいたけの栽培を行う堀田農園さんで栽培のお手伝い、午後からは厚真中央小学校に隣接する放課後児童クラブを訪問し、子どもたちと交流を深めました。また、地域のイベントであるお祭りや地域食堂にも関わらせていただき、町の人々とのつながりを深めました。こうした活動を通じて、多くの地域の方々とお話する機会があり、特に六年前に発生した胆振東部地震のお話を伺うことができました。

今回は、しいたけ栽培、放課後児童クラブ、震災をテーマとして取り上げ、実習生が感じたことや学んだことを紹介します。

【しいたけ栽培について】

堀田農園さんでのしいたけ栽培作業では、原木の水漬けから加工作業、出荷までの流れを体験しました。特に、原木を適切な位置に配置する作業は、体力と判断力を要し、農家の方々の労力を実感しました。これを

毎日繰り返すことの大変さを身をもって知ることができました。現在国内では菌床栽培が主流で、原木栽培を続ける農家は全体の1割ほどです。それでも堀田さんは「しいたけにストレスをかけず、自然環境を活かして育てられる」との理由で続けています。原木しいたけの風味や栄養価の高さに魅力を感じる消費者も多く、こうした農家の努力やこだわりを広めることが重要だと感じました。

【放課後児童クラブについて】

厚真と上厚真の放課後児童クラブを訪問し、それぞれの特色を感じました。厚真では子どもたちが広い自然の中で自由に遊びを考え、上厚真では手作り遊具を使い、こども園の子どもたちとも一緒に遊んでいました。共通していたのは、子どもたちの「自主性」を尊重している点です。支援員はあらかじめ細かい指示をせず、子どもたち自身が試行錯誤しながら学べる環境を整えていました。こうした関わり方が、子どもたちの主体性や創造力を育むことにつながるのだと感じました。また、大人が安全を確保しながらも、子どもたちの自由な発想や挑戦を見守ることの大切さを学びました。遊びの中で学ぶ経験が、成長にとって貴重な機会

であることを再認識しました。

【震災について】

厚真町は胆振東部地震で大きな被害を受けました。当時の話を伺う中で、ボランティアやメディアに対して複雑な思いを持つ方もいることを知りました。堀田さんは、倒れた原木の片付けを手伝ってほしくても、余震の不安から受け入れが難しくなると仰っていました。また、地域食堂で出会った方は、災害時のメディア報道が過度になり、被災者の気持ちを考えてほしいと感じた経験を語っていただきました。復興には外部からの支援が不可欠ですが、被災者の思いや状況に寄り添うことが何より大切です。私たちも、単なる支援者としてではなく、地域の声を聞き、共に考える姿勢を持つことが必要だと学びました。

全体を通して、私たちは毎晩「ふりかえり」の時間を設け、一日の出来事や感じたことを共有しました。



「楽しかったこと」「モヤモヤしたこと」「気づいたこと」などを話し合うことで、自分にはない視点を学び、様々な視点で地域を見つめることの大切さを学びました。また、厚真町での生活を通じて、「自分たちの日常の中でできることは何か」「地域と関わるために何ができたのか」という視点をもつようになりました。震災について学ぶ機会を得たことで、私たちが次世代に伝えていく役割を担っていると自覚するようになりました。震災の記憶を風化させないために、私たち自身がさらに学び、調べ、そして次の世代に伝えていくことが重要です。

最後になりますが、実習担当教員の齋藤征人先生をはじめ、ENOCHの草野竹史さん、水谷あゆみさん、厚真町教育委員会の齋藤烈さん、厚真町の皆さんには、大変お世話になりました。そして、夕陽会の皆様には温かいご支援を頂きました。本実習に関わってくださった全ての方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。

北海道教育大学函館校

地域教育専攻

四年 渡邊 愛子
四年 玉木 音

地域協働専攻
地域政策グループ

三年 高橋 亜弥
二年 前田 和花
二年 鈴木 愛菜

その3 ある活動 特色の 母校

地域づくりのイベント

札幌市での実習を通じて

令和六年度地域政策

ボランティア実習として地域政策グループ二年生二名が札幌市にある保育園「こどもカン

パニー東札幌園」で二週間ほど実習させていただきました。こどもカン

パニーさんが地域政策ボランティア実習で学生の受け入れを行うのは今年が初めてであり、学生にとつても

こどもカンパニーさんにとつても新しい取り組みでした。本実習の主な活動は二〇二四年九月十四日に開催

されたこどもカンパニー東札幌園主催の地域の人と一緒に作り上げるイベントである「東札幌マルシェ」の

準備がメインでしたが、その他にも保育体験、二〇二四年八月二十一日、

二十二日に安平町で開催された「安平教育フォーラム」に参加させていただき、子育て・教育を中心とした

まちづくりについて学んだり、療育施設や学童に見学に行かせていただくなど教育を主軸としたさまざまな

体験をさせていただきました。

今回は初めての受け入れというこ

とで活動をまとめてみようと思います。

【子どもたちと触れ合ってみて】

実習中はほぼ毎日保育に入らせていただき、子どもたちと日常を共にする日が多くありました。実際に子どもたちと触れ合ってみて、子どもたちが非常に積極的だったことが印象に残っています。子どもたち自身で何をしたいのか自分たちで話し合い、選択肢の中から選ぶだけでなく、一から考えるということには私たちが幼少のころはしていなかったことなので衝撃的でした。子どもたちに対してできないからやめてあげる、で

きないということを決めつけるのではなく、どうしたら自分でできるのかという視点で接し、子どもができる環境を整えてあげること、子どもの可能性が広がるということに気が付きました。幼い頃から子どもたち自身の主体性を尊重し、伸ばす教育を受けてきた子どもたちがどのような大人になるのか非常に興味深く感じます。

【地域をつなぐ子どもたち】

今回のメインの活動であった「東札幌マルシェ」は「地域の人と園をまあるくつなぐ」というキャッチコピーがつけられており地域とのつながりを持たせることを目的としています。地域のつながりはどうしても札幌のような都会になると希薄になつてしまいます。しかし地域とつながる機会を幼いころから持つ



ていることで地元に対して愛着がわき、また、互助の精神を育てることができると考えます。これから少子高齢化がより進んでいく世の中、互助はより重要になります。そしてその地



域をつなぐ役割を子どもたちが担うことによって子どもたちを中心としてみんながつながり、子どもやその親だけでなくだれもが暮らしやすい地域づくりの実現の前進につながるのではないかと思います。

北海道教育大学函館校

地域協働専攻

地域政策グループ

二年 小西 加倫

二年 山本紗良々



函館校国際地域学科卒業生の進路

北海道教育大学キャリアセンター長 孔麗

二〇二四年は北海道教育大学函館校に
とって記念すべき年でありました。そ
二〇一四年の函館校国際地域学科創設
から十年目に当たるからです。そこで、創
設された二〇一四年の後、初めて卒業生
が就職した二〇一八年三月の卒業生から
二〇二四年三月の卒業生の進路を振り
返ってみたい。なお、卒業生の進路調査
は卒業後の五月一日現在で卒業生に就職
支援システムで確認しております。

査の提出拒否、フリーランス、声優・俳
優養成所、ワーキングホリデー、海外留
学準備予定、実家の手伝い等があります
が、その実態はつかみ切れていません。
未定についても同様です。就職率を高め
ることができるかが大学の評価として重
要視されるようになっていきました。
また、グループによって進路が大きく
異なるのは当然ですが、二〇二四年三月
の卒業生についてみると、国際協働グ

グループでは民間企業が66%とウエイトが
高く2/3を占め、公務員と教員がそれ
ぞれ一割程度です。地域政策グループで
は民間企業が58%、公務員が32%で、教
員は3%に過ぎません。それに対して、地
域環境グループは教員が多いとされます。
地域教育グループは54%と教員のウエイト
が最も高くなっていますが、唯一の教
員養成コースであっても教員は半数にと
どまっています。

表2は、二〇二四年三月卒業生がどの
ような民間企業、官公庁、学校などに就
職・進学しているかについてみてみます。
民間企業については、かなりの業種に
広がっており、とくに情報通信業、小売
業、その他のサービス業、金融保険業が
多くなっており、いわゆる大企業も少な
くないです。

そのために、キャリアセンター・函館校
では、入学してから卒業まで、学年進行
に沿ったキャリア形成プロセスを明確に
してキャリア支援を行い、きめ細やかな
就職支援を行っています。

就職支援は、民間企業志望者向けの適性検
査対策、面接対策、エントリーシート対
策、教員志望者向けの教員採用試験二
次試験対策講座の開講などです。そのほ
か、就職先企業の開拓、就職ガイダンス、
インターンシップ、専門相談員を配置し
た「進路指導の相談室」などです。また、
官公庁、民間企業の参加を得て「合同官
庁説明会」や「業界研究会」を開催し、
教員志望者向けには教員採用模範試
験、教員採用一次試験合格者に対する二
次対策特別講座を開講しています。

表2は、二〇二四年三月卒業生がどの
ような民間企業、官公庁、学校などに就
職・進学しているかについてみてみます。
民間企業については、かなりの業種に
広がっており、とくに情報通信業、小売
業、その他のサービス業、金融保険業が
多くなっており、いわゆる大企業も少な
くないです。

表2は、二〇二四年三月卒業生がどの
ような民間企業、官公庁、学校などに就
職・進学しているかについてみてみます。
民間企業については、かなりの業種に
広がっており、とくに情報通信業、小売
業、その他のサービス業、金融保険業が
多くなっており、いわゆる大企業も少な
くないです。

表1 北海道教育大学函館校国際地域学科卒業生の進路

卒業年度	卒業生数	(単位:人、%)									
		民間企業		公務員		教員		進学		就職未定	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2018(平成30)年3月	272	149	54.8	37	13.6	50	18.4	22	8.1	9	3.3
2019(令和元)年3月	251	127	50.6	47	18.7	46	18.3	7	2.8	18	7.2
2020(令和2)年3月	288	167	58.0	56	19.4	32	11.1	13	4.5	7	2.4
2021(令和3)年3月	275	145	52.7	52	18.9	48	17.5	12	4.4	6	2.2
2022(令和4)年3月	277	133	48.0	54	19.5	49	17.7	10	3.6	16	5.8
2023(令和5)年3月	268	147	54.9	49	18.3	47	17.5	13	4.9	6	2.2
2024(令和6)年3月	271	136	50.2	46	17.0	51	18.8	11	4.1	13	4.8
(国際協働)	(100)	(66)	(66.0)	(9)	(9.0)	(10)	(10.0)	(4)	(4.0)	(3)	(3.0)
(地域政策)	(76)	(44)	(57.9)	(24)	(31.6)	(2)	(2.6)	(1)	(1.3)	(3)	(4.0)
(地域環境)	(54)	(15)	(27.8)	(9)	(16.7)	(17)	(31.5)	(4)	(7.4)	(6)	(11.1)
(地域教育)	(41)	(11)	(26.8)	(4)	(9.8)	(22)	(53.7)	(2)	(4.9)	(1)	(2.4)
合 計	1,902	1,004	52.8	341	17.9	323	17.0	88	4.6	75	3.9

注: 国際地域学科創設2014年から初の卒業生が出た2018年3月以降の実績。

表2 2024(令和6)年3月卒業生進路先一覧

区分	業 種	進 路 先	区分	業 種	進 路 先
民間企業	金融業	北海道銀行(3)、エムアイカード、岩手銀行、青森銀行、北日本銀行(3)、渡島信用金庫、北海道労働金庫、野村證券	民間企業	複合サービス業	JAようてい、JA鶴岡、ホクレン農業協同組合連合会、生活協同組合コープみらい
	保険業	東京海上日動火災保険(2)、日本生命保険料機支社(2)、明治安田生命保険、ソニー生命保険		産業・林業	株式会社サセキ開東甲産産
	運輸業・郵便業	ANAエアポートサービス、ANA新千歳空港、メイフスカイサポート、西日本旅客鉄道、日本航空(2)、日本郵政株式会社札幌南三条郵便局、北海道旅客鉄道		小売業	イオン北海道、トヨタ自動車、ブックオフコーポレーション、エービーシー・マート、オルゴール堂、サッポロドラッグストアー、セコマ、ニトリ(3)、ネオコーポレーション、薬王堂、良品計画、島村楽器
	情報通信業	LINK-U、ITXコミュニケーションズ、NECソリューションイノベータ、TIS北海道、デジタルアイデンティティ、北海道新聞、かんぽシステムソリューションズ、TBSスパークル、コムチュア、DVM、パーソナルプロセス&テクノロジー、ユニバーサルビジネス・ソリューションズ、WorkHumanIntelligenceカイ365、USEN-MEX THOLDINGS		サービス業(その他)	Evand、FLCプレミアム、グローバルコミュニケーション協同組合、パルキャリア、一般財団法人海外産業人材育成協会、エクシードキャリア(ススポーツ課)、アウトソーシングテクノロジ、ウェルネスコミュニケーションズ、エス・エム・エス、ダイブ、フェローズ、フルキャストホールディングス、国際協力機構、函館商工会議所
	建設業	西村組、サワホーム、ミサワホーム北海道、カウラ、夢真、三和防災、土屋グループ、道路工業		電気・情報通信機器製造業	Orbray
	その他の教育・学習支援業	NOVAホールディングス、ベネッセスタイルケア(こども・子育て支援カンパニー)、日本保育サービス(JPホールディングスグループ)、明光ネットワークジャパン、公益財団法人日本国際教育支援協会、中央出版		医療業・保健衛生	健生病院、健生クリニック
	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	MFフーズ、桂新堂		学校教育(事務)	旭川医科大学、札幌医科大学、小樽医科大学
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	ナイス		国家公務員	函館地方方法務局、北海道開発局(2)、北海道労働局(2)
	卸売業	カネホ倉庫、ほくやく		都道府県庁	道庁、秋田県庁、青森県庁、福島県庁、北海道庁(3)
	不動産取引・賃貸・管理業	ヴェリタス・インベストメント、常口アトム(2)、北海道建物	公務員	市町村	ひたちなか市役所、旭川市役所、伊達市役所、岩手県役所、五所川原市役所、札幌市役所(3)、鹿部町役所、七飯町役所、秋田市役所、十和田市役所、小樽市役所、新島市役所、石巻市役所、仙台市役所、仙北市役所、大曲仙北広域市町村圏組合、宮古市役所(2)、函館市役所(8)、北見市役所、六ヶ所市役所
企業	物品賃貸業	ヤマテリース、中道リース		警察	宮城県警察本部、警視庁、山形県警察本部
	学術・開発研究	森林研究・整備機構 森林総合研究所		消防	水戸市消防局
	その他専門・技術サービス	INTLOOP株式会社、KPMGコンサルティング、BizPafion、サントラープリシティサービス、Web関係のデザイナー、八千代エンジニアリング		小中学校	北海道(7)、青森県、岩手県、山形県(3)、福島県(2)、東京都、神奈川県、さいたま市、宮城県、仙台市、北九州市
	宿泊業・飲料サービス業	ドトールコーヒー		特別支援学校	北海道
	生活関連サービス業・娯楽業	JR東日本ゆづりリズム&セールス、エステティックTBC、えびす座、ラウンドワン、日本旅行北海道、五枝塔タワー		中学校	北海道(6)、青森県(2)、岩手県(5)、宮城県(2)、秋田県、山形県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県
	社会保険・社会福祉・介護事業	介護老人保健施設ゆとり、LITALCO、サンケイビルウェルケア、ボラリス、社会福祉法人札幌会、社会福祉法人ノチ福祉会(2)、社会福祉法人びぐれっと、社会福祉法人音更町社会福祉協議会、日本年金機構(2)		中等教育学校	北海道、静岡県
				高等学校	北海道、東京都
				義務教育学校	北海道、岩手県、東京都
			進 学		TAFE Queensland、茨城大学大学院教育学研究科、秋田大学大学院教育学研究科、上越大学大学院教育学研究科、大阪公立大学大学院、東京学芸大学大学院教育学部プログラム、兵庫教育大学大学院、北海道教育大学教職大学院、北海道教育大学札幌校教職大学院、北海道大学大学院環境科学部、北海道大学大学院農学

注: 進路先の()は人数、()なしは1人。

特集

母校のいま、学生の学び

北海道教育大学函館校
国際地域学科講師(国際協力論)

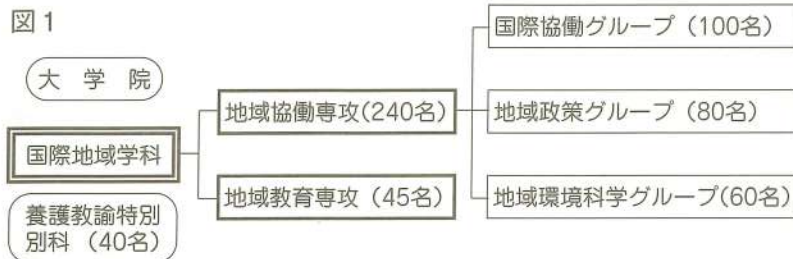
津曲 真樹

国際地域学科の構成

国際地域学科は、国際的な視野と教育マインドをもち、豊かなコミュニケーション能力を発揮しながら、地域を活性化できる人材を養成することを特色としています。平成二十六年に学科が設置されて以来、地域の再生を担う人材、国際的に羽ばたける人材、さらに教員や指導員として地域の教育や社会福祉に貢献できる人材が、函館校から数多く社会に飛び立っています。

国際地域学科は、国際的視野をもつて地域社会の諸問題を解決できる人材の育成を目指す「地域協働専攻」と、グローバル化する現代社会の地域が抱える教育課題を解決できる人材の育成を目指す「地域教育専攻」という、二つの専攻から構成されています。前者の「地域協働専攻」は、国や民族・地域・文化・社会の違いを超えて共に行動するための協働力を身につける「国際協働グループ」、地方行政やまちづくりを担うためのネットワーク構築力と実行力を身につける「地域政策グループ」、そして地域の環境問題を解決するための科学的な方法と技術を身につける「地域環境科学グループ」という三つのグループから成っています。それぞれのグループでは、主に人文科学(国際協働グループ)、社会科学(地域政策グループ)、自然科学(地域環境科学グループ)の知識を習得しながら、さまざまな地域課題の解決に取り組んでいます。後者の「地域教育専攻」では、

図1



学科生全てに期待される資質の醸成のために、関連する諸科学を国際的な観点から結びつけ統合することが必要であり、また、地域振興を担う人々を育成するという意味で、実践的な教育学的視点も大切で、そのために国際地域学科では、広い意味での「教育」を基軸としつつ、統合的な知を養う実践の機会を重視しています。その代表的な取り組みとして、地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うための「地域プロジェクト」が全学生必修科目(二単位)として設定されています。地域の現場が抱えている課題を抽出し、その解決を図るために学生がチームを組んで主体的にプロジェクトの構想策定から実施に取り組んでいます。(写真1)は、鹿部漁港で聞き取りを行う「地域企業」のポジショニング



【写真1】



【写真2】



【写真3】

可視化を国際的なツールを使って支援するプロジェクト(メンバー)国際地域学科の教育課程における特色ある試みは、もちろんこの「地域プロジェクト」ばかりではありません。次に、「地域協働専攻」の取組「地域教育専攻の取組」についてご紹介します。

地域協働専攻の取組

地域協働専攻の取組としてはじめに挙げるのは「国際地域イノベーション」人材養成プログラム(通称「国および共通科目」とも)の「日本語学習支援専攻」または「地域づくり専攻」のいずれかを選んで授業を履修することで、最終的に「国際地域イノベーション」(日本語学習支援/地域づくり/観光まちづくり)のいずれか)の認定資格を取得することができるといいます。令和三年度より始まったこのプログラムは、地域教育専攻所属の学生も受講できます。地域協働専攻所属の学生が多く取り組んでいる「写真2」は、共通科目「プロジェクトマネジメント」の実践ワーク風景



【写真4】

この科目は、学生たちが教員らの引率のもと複数のグループに分かれて諸々の国・地域に出かけ、それぞれの国の大学や企業、コミュニティなどを訪問して国際的な見聞を広めます。令和六年度

師として迎えた「寄附特別講座」を実施しており、学生が実社会に



母校学生の笑顔のために 学生支援事業の報告

本部学生支援部長 寺崎 歩

会員の皆様には、平素より学生支援部の活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度も学生支援部は、種々の事情により生活が困窮している学生に対し、支援物資を提供しました。

一回目の支援は、函館・渡島地区の小・中・高・高等支援・養護学校等で研修を行う教育実習生に対して行ったものです。夏休み明け、学生支援部から各校の夕陽会員に配付依頼をし、一実習生に対し二千円分のクオカードを付与しました。配付を担当したある学校の会員からは「受け取った学生が非常に喜び、笑顔になっていました」との報告を受けました。配付に際し、教育実習生のいる学校の会員の皆様にはご協力をいただき、有り難うございます。

二回目の支援は、十二月十一日、十二日、十三日、大学キャンパス内の夕陽記念館において、全学生（希望者）を対象に行いました。事前に申込をした学生が期間内に夕陽記念館を訪れ、クオカードを手にするという流れです。申込については、事前に学生支援グループから全学生にメールで周知していただき、グループフォームで申込を受ける形をとりました。また学内掲示板にチラシを掲示していただきました。

十一月七日の午後に周知メールを流していただきましたが、翌日の八日の朝には申込が二百八十名がわななっており、関心の高さがうかがわれました。最終申込者は三百三十六名でした。さあいよいよ配付当日です。今年度、夕陽記念館には配付のお

手伝いに、風間会長をはじめ、伊藤副会長、竹鼻副会長、西谷副会長、新田幹事長、黒田副幹事長、宮下副幹事長が駆けつけてくださいました。配付開始。早速続々と学生達が来館を訪れた学生にはまず、夕陽記念館の中をじっくりと見学してもらいます。副会長にはガイド役をお願いしました。普段入ったことのない夕陽記念館を、興味津々で見学する学生。どうしてこんなにたくさんさんの美術作品が飾られているんですか「洞爺丸沈没について詳しく知りたい」「昔の教科書が置いてあって興味深かった」「この箱（ストロープ用の石炭運搬箱）は何ですか」「当時の学生達の服装はどんなものだったんですか」「最初は教育大学という名前ではなかったんですね」などの質問が相次ぎ、学生達は北海道函館師範学校から函館学芸大学、そして現在の北海道教育大学函館校に至るまでの永き伝統について、目を輝かせながら副会長のお話に聞き入ったり、展示物を見学したりしていました。

中には「〇〇に就職が決まったんです」といううれしい報告、「〇〇のレポートに今取り組んでいます」や自身のアルバイトの状況「将来どういう方向に進めば良いか悩んでいます」等、等の相談話を話す学生もいて、話が弾む場面が多々ありました。「たくさんお話しすることができて元氣になりました」「見学できてとても面白かったです」との感想を残していく学生もいましたが、学生と話すことで学生の考えや生活の様子を知ることができ、逆に配付担

当の方が元氣や力をもらい楽しい時間を過ごすことができた。学生と話して驚いたのは、真剣に自分の将来を考え、目標を持つて努力をしていること。私が学生だった頃より何倍もしっかりした考え方をしているな、と感心させられるひとときでした。

見学後、夕陽記念館を出る学生にクオカードを手渡しました。「ありがとうございました」「頑張つて」と笑顔で受け取る学生に、「頑張つて」と配付担当の激励。三日間で支援物資を配付したのは二百二名となりました。実施に際し、大学側には様々な面でサポートしていただきました。厚く御礼申し上げます。



受賞(章)おめでとうございます

★瑞宝双光章 (秋の叙勲6/11/3)
高佐 駒雄 氏 昭34年Ⅱ卒

★瑞宝双光章 (秋の叙勲6/11/3)
関 建治 氏 昭39年Ⅰ卒

★瑞宝双光章 (秋の叙勲6/11/3)
恵庭市島松寿町二の三三の一〇

★瑞宝双光章 (秋の叙勲6/11/3)
齊藤ゆき子 氏 昭46年卒

★瑞宝双光章 (秋の叙勲6/11/3)
せたな町瀬棚区島歌二二七の一

★函館市文化団体協議会白鳳賞6/11/22
安井 孝 氏 昭38年Ⅰ卒

★函館市山の手二の五〇の九

★瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/12/1)
川津 忠義 氏 昭34年Ⅱ卒

★函館市東山一の二二の一六

★瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/12/1)
石郷岡 武 氏 昭36年Ⅰ卒

★北海道教育功績者表彰 (7/1/8)
河村 克也 氏 昭62年卒

★北海道教育功績者表彰 (7/1/8)
岩見沢市立東光中学校

★北海道教育功績者表彰 (7/1/8)
寺本 公彦 氏 昭62年卒

★北海道教育功績者表彰 (7/1/8)
函館市立八幡小学校

★北海道教育実践表彰 (7/1/31)
下野 里紗 氏 平19年卒

★岩見沢市立南小学校

★就任おめでとうございます
木村 育恵 氏 平12年卒

★北海道教育大学函館校キャンパス長 (7/1/1)

学生応援プロジェクト

北海道教育大学函館校同窓会【夕陽会(せきようかい)】は、個々の事情により生活が困難している学生の皆様を対象に(200名上限)、次の支援を行います。

配付日時: 12月11日(水)・12日(木)・13日(金)
11:00~13:00

配付場所: 夕陽記念館
支援物資: QUOカード(2,000円)

【お申し込み】
①お申し込みは、左のQRコードある以下のURLからフォームを必要事項の記入をお願いいたします。下記メールアドレスにお問い合わせください。【締め切り 12月4日(水) 申込みURL: <https://www.hokkaido-u.ac.jp/~seikyokai/>】

北海道教育大学函館校同窓会(事務局)
E-mail: seikyokai@hokkaido-u.ac.jp
〒041-8686 函館市東山4丁目5-5 電話: 0138-55-0024

コロナ禍から始まった本事業。未だある学生達を同窓会として実質的に支援すること、学生の生活や学習をサポートする意味合いのもと、「学生応援基金」を資金源に力を入れています。これまで基金にご協力いただいた方々に深く感謝の意を表するとともに、あらためて「学生応援基金」へのご協力をお願い申し上げます。今後とも変わらぬご支援を宜しくお願いいたします。

前納会費納入会員名簿追加分

酒加小 井賀松 一重裕 弘仁和 渡函石 島館狩 昭昭 平元 61 62 長仲福 谷井井 川靖典 秀雄 渡函 渡島 昭昭 62 61 60 (敬称略 令和7年3月1日現在)

夕陽会員訃報

菊地 道春 氏 昭25 予科 4・7・9 逝去
札幌市北区あいの里3の10の1の1 長男 備氏
西城 香里 氏 平 7 5・12・28 逝去
村中 昇 氏 昭35 I 6・1 逝去 弟 孝政氏
室蘭市水元町47の12
高原 哲 氏 昭30 II 6・4・20 逝去
函館市山の手2の31の15 妻 聖子氏
山内 満 氏 昭31 II 6・5・3 逝去
伊達市舟岡町135の34 妻 紀世子氏
清水 文男 氏 昭23 6・5・20 逝去
岩見沢市幌向南1の1
高橋 慧 氏 昭35 II 6・10・12 逝去
苫小牧市見山町3の4の10 妻 規子氏
新井田小田島レイ 氏 昭24 6・10・16 逝去
北斗市大工川2の2の17 長女 沢田サカエ氏
青木 美鈴 氏 昭49 6・10・22 逝去
函館市千歳町17の17 夫 昌史氏
長谷川 矩男 氏 昭41 I 6・10・26 逝去
函館市本通1の55の6 妻 和子氏
中川 和昭 氏 昭30 II 6・11・3 逝去
札幌市西区二十四軒4の1の3の1の913 妻 昌代氏
木村 貴 氏 昭36 I 6・11・5 逝去
函館市湯浜町10の17 妻 智子氏
上田 康一 氏 昭38 I 6・11・9 逝去
函館市深堀町31の23 妻 和子氏
尾角 一郎 氏 昭32 I 6・11・12 逝去
江別市東野幌本町7の1のC 605
小川 修平 氏 昭28 I 6・11・12 逝去
函館市東山2の7の23 妻 スマ氏
小笠原 愈 氏 昭35 I 6・11・21 逝去 妻 則子氏
函館市富岡1の10の14
伊勢 健 氏 昭39 I 6・11・30 逝去
函館市美原3の56の14 妻 純子氏
石井 壽八 氏 昭39 I 6・11・30 逝去
函館市時任町26の34 妻 彰子氏
福田 隆次 氏 昭34 II 6・12・10 逝去
七飯町本町5の5の1 妻 安子氏
國田 悦朗 氏 昭30 I 6・12・10 逝去
函館市深堀町13の10 妻 絢子氏
尾上 聰 氏 昭34 I 6・12・11 逝去
函館市本通1の4の21の103 長男 丘氏
後藤 賢一 氏 昭52 6・12・16 逝去
函館市駒場町16の11 妻 千加子氏
奥野 利夫 氏 昭24 6・12・19 逝去
函館市本通3の23の22 妻 圭子氏
井上 能考 氏 昭28 I 7・1・2 逝去
函館市日吉町3の7の32
上田 正道(駿鶴) 氏 昭34 II 7・1・7 逝去
函館市北美原3の12の7 妻 昌子氏
石垣 英俊 氏 昭35 II 7・1・9 逝去
函館市桔梗5の21の16 妻 郁子氏
齋藤 喜久子 氏 平 2 7・1・23 逝去
厚沢部町赤沼町23の5 夫 豪志氏
柴田 誠二 氏 平 24 7・1・27 逝去
札幌市中央区南18西15の2の25の208 妻 けい子氏
井上 平治 氏 昭40 I 7・2・1 逝去
七飯町大中山3の303の31 妻 美奈子氏
森 三樹也 氏 昭25 7・2・4 逝去
江差町南が丘7の306 妻 キミ氏
田中 久 氏 昭33 I 7・2・12 逝去 妻 慶子氏
函館市柏木町2の17 (令和7年3月1日現在)

令和7年度 北海道教育大学夕陽会

本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 令和7年6月28日(土)

◆会 場 函館国際ホテル(〒040-0064 函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151)

- ・令和7年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・令和7年度 総 会 16時～17時
- ・令和7年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

編集後記

◆この度も会員の皆様や事務局の応援をいただきながら会報発行に向けて準備を進めて参りました。ご多用の折、会報発行へご尽力いただきました皆様へ深く感謝申し上げます。
◆予測されていたことですが情報リテラシーが求められる時代となり、この一月に実施されました大学入学共通テストにおいても出題教科として「情報」が新設されました。
◆社会では生成AIが何かと話題になることが多くなり、身近なところでも仕事や生活に数種類の生成AIが手軽に活用されるようになってきました。
◆時代が劇的に変化している中でも本号でご紹介のように会員の皆様の各界でのご活躍や各種受賞(章)をお知らせできますことをたいへん嬉しく思います。
◆この春には、各界へ多くの同窓生が力強く母校を巣立つとともに、新入生として希望を胸に各地より若人が北の大地へ集います。
◆これからも母校の発展と学生や同窓の皆様のご活躍ご多幸を祈念しながら、夕陽会報第二三八号をお届けいたします。

(情宣部長 近江 辰仁 記 昭63卒)

へお願いいたします。
本部事務局へのご連絡などは、次の所

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138)46-2235

夕陽会専用070-8521-9110

FAX番号(0138)47-7376

e-mail: sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)